

里美ツーリズム探究会
(農家民宿「荒蒔邸」)

代表者 白石 智洋

住 所 常陸太田市大中町1547

主な取組地域 常陸太田市(里美地区)

問い合わせ先 携帯090-3914-5337(白石氏)
 0294-82-2013



取組(活動)内容

地域の主婦などの里美ツーリズム探究会のメンバーが、古民家「荒蒔邸」(築150年)を利用した貸し別荘型の会員制農家民宿として事業をスタート。
 「自分の田舎のように自由に」といったコンセプトで、里山の清流と山々が織りなす茨城県の県北地域の豊かな自然の中で「普段着でのんびり田舎暮らしを満喫できること」を持ち味にしたビジネスモデルとして、今注目されている。

利用方法等

会員制：会費年1万円/組
 (1組：4~8名まで)
 宿泊費：1泊2千円/人
 (利用は4名以上)
 年間利用者数 300人~400人
 (週末は常に予約で一杯)
 ペットの同伴も可。



蕎麦打ち体験



餅つき体験



・貸し別荘方式により、料理は囲炉裏やかまどを使って自炊が基本。(電気炊飯器、ガスコンロあり)



間取



評価のポイント

県北地域におけるグリーンツーリズムの新しいスタイルを都市住民に提供。古民家を活用した新しい農家民宿のビジネスモデルを評価。

西塩子の回り舞台保存会

代 表 者 大貫 信正
 連 絡 先 常陸大宮市歴史民俗資料館
 主な活動地域 常陸大宮市西塩子地域ほか
 問い合わせ先 0295-52-1450



取組(活動)内容等

この取り組みは、現存する日本最古の組立式の農村歌舞伎舞台を、町が文化財調査で再発見したことに始まる。

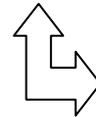
地元住民が保存会をつくり、組立技術や地芝居等を習得し、H9年に半世紀ぶりに舞台を復元。

以後、3年に一度、舞台を組み、公演を行うなど次の時代に繋がる伝統文化の保存継承活動を行う。

今年の10月28～29日には、3回目の定期公演を開催。前は県内外から約5,000人の観衆が集まる。

舞台で使用する「平成の大幕」づくりを行う団体が結成され、22の団体・個人がボランティアとして協力し、綿の栽培から糸紡ぎ、織りまですべて行い大幕を作成している。(今度の舞台で初披露)

公演には地芝居のほか、地元小学生の歌舞伎が出演。準備には高校生美術部による大道具造りや、ボランティアによる組立て衣裳づくりなど、あらゆる世代が参画。



舞台組み立て作業



屋根に使用する真竹300本余を伐りだし、1ヶ月以上かけて舞台を組み立て、公演後わずか1日で解体。

評価のポイント

現存する日本最古の組立式回り舞台を約半世紀ぶりに再興させた住民のパワーとスケールの大きな取組は見事。世代を超えた地域伝統文化の継承と発展に期待。

水戸オセロプロジェクトいばらき推進委員会

代表者 (会長) 人見寛徳

(運営委員長) 鬼澤慎人

住所 水戸市南町3-4-20

まちかど交流館4F

主な活動地域 水戸市を中心に県全体

問い合わせ先 029-224-0906



取組(活動)内容等

小学生のオセロ大会やまちなかでの青空オセロラリーの定期開催、オセロミュージアムの開設などオセロの楽しさや歴史・特徴を広く普及するとともに、オセロ発祥の地として、オセロを活用した新たなコミュニケーションづくりに取り組んでいる。

本年(H 1 8 年) 1 0 月 5 日 ~ 8 日には、第30回世界オセロ選手権大会を水戸で開催し、世界に向けてオセロ発祥の地「水戸」をPR。



まちなかでのオセロ大会や各種イベントなどを通じ、オセロの楽しさを広く普及。



小学生オセロ大会



- ・オセロイベントには、毎回 300 名以上が参加。
- ・オセロの競技人口は世界 30 ヶ国以上で約 6 億人。日本の競技人口は約 9,000 万人といわれる。



評価のポイント

オセロ発祥の地として世界に向けて情報を発信。オセロを活かした世界と交流するまちづくりの今後の発展に期待。

いしやのトマト組合

代 表 者 長谷川 正一
 住 所 笠間市稲田2331-1
 主な活動地域 笠間市、桜川市
 問い合わせ先 0296-75-2214



<いしやのトマトロゴマーク>

取組(活動)内容等

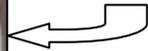
御影石の産地である笠間市及び桜川市の石材業者10名が、研磨粉の再利用のため組合を設立。県窯業指導所及び県園芸研究所の協力を得て、研磨粉と粘土を混ぜ合わせ、陶芸の方法で焼き粒状にすることで、保水力に優れ、水分を徐々に供給する培土を開発し、高糖度のトマトの開発に成功。通常のトマト糖度が5度程度であるのに対し、このトマトの糖度は、その約2.5倍（糖度12度）。これは、甘いみかん、西瓜などと同じである。

糖度：食品などに含まれる糖分の割合を百分率（%）で表したもの。



粒状培土

産業廃棄物であった研
磨粉の再利用



いしやのトマト出荷時



定植作業

有名店において高値で販売することにより、農業、石材業及び本県のイメージを向上。
三越日本橋店野菜売り場（サングリーズ）に陳列。
3個:1,000～1,500円で販売し、完売（H16年5月）



収穫風景

収穫の季節：3月～5月



栽培第1号トマト

今後は、栽培技術をトマト以外の農産物、オクラ・キュウリなどの野菜などに活用できるように研究を行い、高付加価値の農産物を生産することにより、農業の高所得化を目指す。

評価のポイント

石材業者が異業種である農業にチャレンジし、廃材を活用したフルーツトマトを凌ぐ高糖度のトマト栽培に成功。「いしやのトマト」のブランド化に期待。

NPO法人 大洗海の大学

代表者 中川 祐二
 住所 大洗町大貫町1212 - 57
 主な活動地域 大洗町及び近隣市町村など
 問い合わせ先 029-266-3322



ウォータースポーツ体験

取組(活動)内容等

大洗の「海」にまつわる人やモノを、新たな海辺の文化を創造する「海の大学」としてコーディネートすることによって、地域の資源を最大限活用して、地域のブランド化と情報発信を進め、そして交流の拡大と観光や漁業といった産業の活性化を図る。

平成16年に開講した「海の大学」では、17年までの2年間で、236回もの多彩なカリキュラムを提供。県外からも多数参加。

捨てられていた蛤の貝殻の活用や、町全体をキャンパスとして、多くの関係者を取り込んだ7学部25学科の設置など、地域の素材、人材の掘り起こしが図られている。

海賊染め

草木染め:草や木の天然の色素を使って染めること。海の大学においては、草木の代わりに海藻等を使用。



スポーツカイト体験

高齢者や障害者の方々でも体験できるカリキュラムを実施



各種カリキュラムへの参加者が、平成16年度は1,935人。平成17年度は3,110人と大幅に増加。

貝合わせ

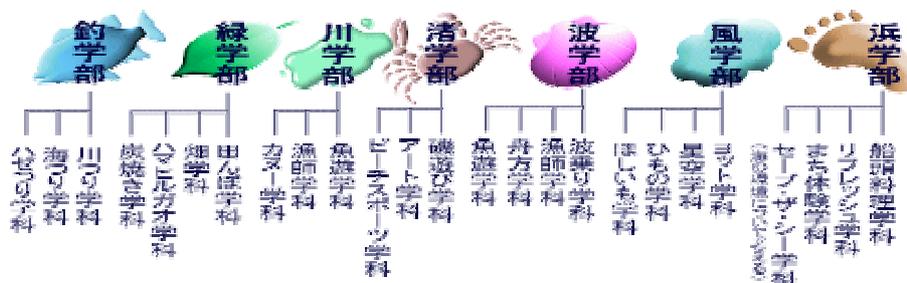
平安時代の物合わせのひとつ。左右二組に分かれ、種々の貝を出し合い、その珍しさ、美しさ等を競う遊び。



大洗海の大学参加者集合写真

「NPO大洗海の大学」組織図

総長、学長の元、事務局として企画管理部及び情報発信部があり、7学部25学科がある。



評価のポイント

海にまつわる地域資源を存分に活用し、住民総ぐるみで斬新な体験プログラムを創出。本県を代表する海を舞台とした交流の先導者としての活躍に期待。

桜川市真壁地区の住民の皆さん
【真壁のまちづくり】

住 所 桜川市真壁町真壁
 主な活動地域 桜川市真壁地区
 問い合わせ先 桜川市観光協会
 (桜川市役所商工観光課内 0296-55-1111)



取組(活動)内容等

平成5年、400年前の街割りが残る町内の古い街並みを保存しようと住民有志が「ディスカバーまかべ」を結成。
 その後、地域住民の多様な取り組み(ひなまつり、観光案内ボランティア、人形浄瑠璃の復活、藍染め等の伝統文化の継承、石材業や和菓子製造等地場産業の活性化、特産品開発など)へと発展しており、現在では様々な団体・個人による活動が、年間を通じて行われている。
 平成15年から「蔵の街・真壁のひなまつり」を開催。当初は43軒の参加で始まったひなまつりが、年々参加数が増え、H18には140軒が参加し8万人を超える人出があった。
 この他数多くの団体が有機的に関わりながら、官民一体となったまちづくり活動を展開。
 国の登録文化財は現在 104 棟。



立春から3/3までの1ヶ月間、各家庭に眠る雛人形(江戸時代から現代まで)を展示するものであるが、初年度から多くの人出で賑わい、年を追う毎に来訪者が増加。(H15:約1万3千人、H16:約5万人、H17:約8万人、H18:8万人強)

旧真壁郵便局(昭和2年築の登録文化財)を情報発信・交流拠点として改修。オープンと同時に発足した「まちづくり真壁」が管理・運営。



[まちづくり活動の具体的な内容とその活動主体]

蔵のコンサート開催、街並み案内版の設置(ディスカバーまかべ) / 登録文化財の保存と活用(登録文化財を活かす会) / すいとんによるまちおこし(桜川市真壁商工会) / まかべ夜祭り:登録文化財の通りに石燈籠など光のオブジェを配置(真壁町商店会連合会、真壁石材協同組合等) / 観光案内(街並み案内ボランティア) / 旧真壁郵便局の管理・運営(まちづくり真壁) / 蔵の街真壁のひなまつり~和の風~(ひなまつり開催支援会等) / 人形浄瑠璃「真壁白井座」の復興(真壁白井座保存会) / 自宅庭の一般開放(真壁オープンガーデンの会) / 観光事業の振興・宣伝(桜川市観光協会真壁支部) / 真壁菓子めぐりマップの作成(真壁菓子商組合) / 地域の環境整備(歓喜の里)

評価のポイント

住民の創意工夫により歴史的・文化的地域資源を活かした市民が支える自主的なまちづくり活動のモデルであり、今後は本県を代表する観光地として発展することを期待。